



今富っ子

小浜市立今富小学校
令和元年6月4日
=6月号=



『あいさつロード』にご理解・ご協力を

「おはようございます」と校門で子ども達とあいさつを交わすようになって、早二年が過ぎました。登校して行く子ども達はもうみんなです。通学途中の中学生や高校生、通学途中の地域の方もあいさつをしてくださいます。朝の校門前は、たくさんの人から元気をいただけた、とても居心地の良い場所になっています。

PTA総会でお伝えしましたが、「子どもがモデルとなる学校」に加えて、今年度は「大人がモデルとなる家庭・地域・学校に・・・」を合い言葉に、みなさんと連携していきたいと思っています。

その具体的な提案として、『あいさつロード』を設定できないかと考えています。登下校する子ども達と保護者・地域のみならず、通学路で顔を合わせたらあいさつをするという取組です。

あいさつは良い人間関係を築く上で、とても大切なものです。誰にでも、自分からあいさつできるということ、子ども達にとって一生の財産になります。「おはよう」「行ってらっしゃい」「行ってきます」「お帰り」「ただいま帰りました」。あいさつを通して、子ども達と地域の大人が交流できる、そんな今富地区になったらステキななあと思っています。

学校では、「登下校時自らあいさつができる児童を育て、地域の人から愛される学校にし

『あいさつロード』

- いつ；子どもの登下校時に
- どこで；通学路で
- だれが；保護者や地域の方が
- だれと；登下校する子ども達と
- どうする；顔を合わせたらあいさつをする

よう」を生徒指導のスローガンに、子ども達へ登下校時の積極的なあいさつを指導していきます。保護者・地域のみならず、身近な大人として、あいさつを通してモデルとなっていたけるとありがたいです。

日本一あいさつがステキな学校、今富地区になると嬉しく思います。

『あいさつロード』の取組にご理解・ご協力をお願いします。

校長の独り言



毎年、一年生が職員玄関前のスペースで、アサガオを育てます。今年も水やりをしている一年生のそばを通ると、「校長先生、ほら、芽が出てきました」「○○さんは、五つも芽が出ています」と、子ども達が声をかけてくれて、朝からとても幸せな気持ちになります。

ところが先日、子ども達が一カ所に集まって何やら騒いでいます。そばに行くと、「校長先生、ツバメのヒナが死んでいます」と教えてくれました。見ると、巣から落ちた二羽のヒナが、息絶えていました。そのヒナをどう扱ったらいいかわからず、騒いでいたようです。

さっそくスコップで穴を掘り、その中にヒナを埋葬しました。私の実家はお寺です。「じゃあ、手を合わせて、みんなでお祈りしましょう。南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏」とお念仏を唱えました。周りに居る子ども達も神秘的な面持ちで、小さな手を合わせてお祈りしていました。種を植え、毎日水をやること、いのちが吹き込まれ、芽を出したアサガオの芽。そのそばで、自然界の厳しさをより、巣から落ちていのちを落としたツバメのヒナ。期せずして『生と死』を目の当たりにした一年生。いのちについて、まだまだ深く考えるのは難しいと思いますが、何か感じるものがあったのではないかと考えています。

ですから、ヒナの「骸骨」を「いのち」処分するのではなく、どう扱ったらいいか、その方法が分からず困ったのでしょつと、手を合わせたとき、「神秘的な面持ちになったのだらう」と思います。

でも、十分に理解できないままでも、「いのち」は子ども達にとって、とても価値あるいのちの学習になったのではないかなと思います。

『カサランカ』です。「オリエンタル・ハイブリッド」という品種の一つで、その美しさからユリの女王と呼ばれています。原産地はヨーロッパのようです。



『カサランカ』の花言葉は「雄大な愛」です。保護者や地域のみならず、包み込むように優しく大きな愛情を、あいさつを交わすことを通して、子ども達にいっぱい注いでいただけるとありがたいです。



ご意見・ご感想をお聞かせください。 (キリトリせん)

お名前 ()

文責；山名 聡